

○幼保小の架け橋プログラムの進め方（フェーズ）のイメージと実施状況チェックリスト

学校・園における架け橋プログラムの進め方のイメージを下表に示しています。「基盤づくり」から「持続可能な連携・接続」に至るまでのプロセスの目安であり、実際には地域の実態に応じ、各フェーズ間を行きつ戻りつ、時には2つのフェーズをまたぎながら発展していくこととなります。実施している取組に□を入れながら各校・園での進み具合を確認してみましょう。

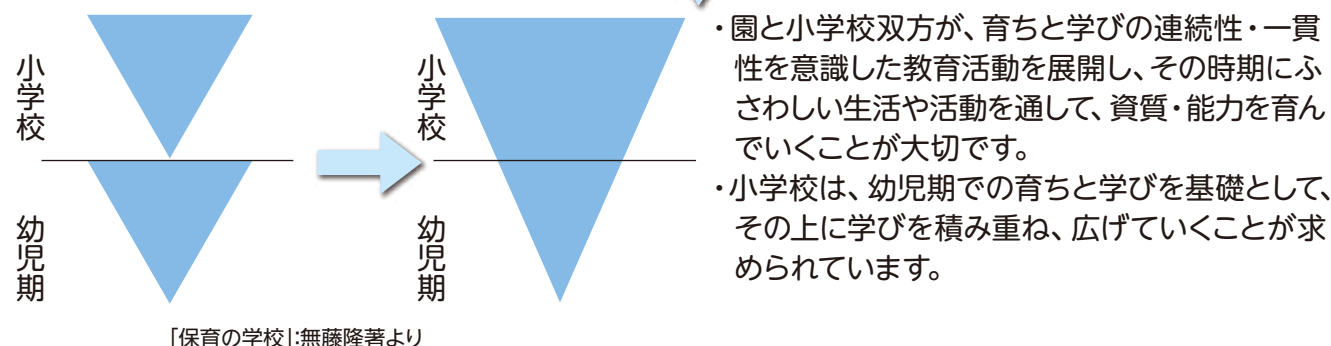
フェーズ	フェーズ1 基盤づくり (10項目)	フェーズ2 連携・接続の実施 (11項目)	フェーズ3 連携・接続の充実 (8項目)	フェーズ4以上 持続可能な連携・接続 (8項目)
体制づくりと情報共有	☐ 校園長が中心となり、連携・接続の対象園・学校を確定 (P.10) (Point1) ☐ (市立幼稚園・小学校)教育指導計画書に幼保小の連携・接続の具体的取組を記載 ☐ 幼保小連携・接続主任など、担当者の決定 ☐ 入学前の新1年生、または入学後の1年生の情報共有 (P.11) (Point2)	☐ 目指す子ども像などを共有するための架け橋ミーティング(合同会議)の設置・実施(P.10) (Point4) ☐ 架け橋ミーティングにおいて、幼保小の取組に関する年間計画の作成(P.10、16、17) ☐ 各校園の連携・接続主任などの担当者の役割の明確化と実践(P.18、19) ☐ 自校園の教職員対象の「幼保小の連携・接続」に関する校園内研修の実施(P.10) ☐ 幼保小間でより綿密な入学前後の1年生の情報共有の実施(保育・授業参観を通しての共有)(P.11)	☐ 目指す子ども像の具現化に向けた取組改善と年間計画の見直しのための架け橋ミーティングの実施(P.10) (Point9) ☐ 幼保小の教員・保育者が気軽に話し合える機会の設定と仕組みの構築 ☐ 「幼保小の連携・接続」が、自校・園全体の取組となるための校園内研修の充実と仕組みの構築(P.10)	☐ 架け橋プログラムの改善・充実のための架け橋ミーティングの定着・発展 (Point14) ☐ 「幼保小の連携・接続」が、持続的、発展的な取組となるための自校園の組織体制の構築 (Point14) ☐ 架け橋期のカリキュラム作成と検証・改善(P.11) (参考:京都市架け橋期のカリキュラム例P.24～29) (Point16)
保育・教育の相互理解と質的向上	☐ ①半日入学の実施 ☐ ①スタートカリキュラムの実施 (Point3) ☐ 行事予定等の配布物の交流 ☐ 生活発表会など、幼保小の学校・園行事への教員・保育者の参加・参観	☐ ①5歳児がより安心感をもてる半日入学の実施(P.13、62) (Point5) ☐ ①新入生(1年生)がより安心感をもてる入学式の実施(P.13、63) (Point5) ☐ ①幼児期の育ちや学びをより意識し工夫したスタートカリキュラムの実施(P.13、64～69) (Point6) ☐ スタートカリキュラムの保護者への発信(P.13) ☐ 公開保育・公開授業の開催(P.11) (Point7)	☐ 幼保小での保育内容・教育内容についての合同研修会の開催(P.12、92～94) (Point10) ☐ スタートカリキュラムの就学前施設への公開と事後協議の実施(P.13) ☐ 公開保育・公開授業の事後研修会を充実(P.12、92～94) (Point11) ☐ 小学校との接続を意識した保育実践と幼児期の育ちや学びを意識した授業実践(P.12、56～79) (Point12)	☐ スタートカリキュラムや普段の保育・授業の公開と事後協議など、幼保小が互いの保育・教育を理解するための合同研修会が定着し、持続的に改善・発展できる仕組みの構築 ☐ 子どもが主体的に学ぶ(遊ぶ)姿が見られる「主体的・対話的で深い学び」のある保育・授業への改善・実施(P.12、56～79) (Point15)
子ども同士の交流の推進	☐ 運動会など、幼保小の学校・園行事への児童・幼児の参観・参加 ☐ 幼児と小学生との交流(学年は不問)の実施(P.90、91)	☐ 子ども同士の交流(5歳児と1年生)の実施(P.14) (Point8)	☐ 互恵性のある交流に向けての工夫(P.14、80～89)(幼保小交流活動参観シート(P.97)の活用) (Point13)	☐ 互恵性のある子ども同士の交流に関するPDCAサイクルが確立し、持続的に改善・発展できる仕組みの構築 ☐ 互恵性のある子ども同士の交流だけでなく、子どもの自発的な交流が生まれる環境づくり(P.14) ☐ 自校園内、および幼保小全体で交流学習等について、改善や発展の方向性を共通認識

①…小学校で行う取組

Point●…幼保小の架け橋プログラムを進める4つのフェーズの中から、中核となる16の取組を厳選し、概要版にまとめています。

参考資料:幼保小の「架け橋プログラム」実践のためのガイド(湯川秀樹・山下文一監修)

小学校の学びは、0からのスタートではない!!



- ・園と小学校双方が、育ちと学びの連続性・一貫性を意識した教育活動を展開し、その時期にふさわしい生活や活動を通して、資質・能力を育てていくことが大切です。
- ・小学校は、幼児期での育ちと学びを基礎として、その上に学びを積み重ね、広げていくことが求められています。

自校園のフェーズを確認しましょう ～フェーズ判断基準について～

- ・連携・接続の進み具合が、どの「フェーズ」にあるのかを、幼保小が共通認識しながら取組を組織的・計画的に推進していくことが重要になります。
- 実際には、2つのフェーズをまたぐことがあると考えられますが、フェーズ判断基準を下記のように設定いたします。

【フェーズ判断基準】
当該フェーズの全チェック項目の 半分以上 をクリアした場合、そのフェーズとする。

今年は、フェーズ2の11個のチェック項目の内、7つできているので、私たちは「フェーズ2」ですね。

来年は、残りの4項目に取り組みましょう。

フェーズ3の内容に取り組むことも大切ですね。

